

46 センター病院患者・自立支援局利用者に対する東洋療法の活動報告（その3）

自立支援局 理療教育・就労支援部 理療教育課 加藤 麦
麻生弘樹、新井秀信、池田和久、小笠原ひろみ、小泉 貴、島村明盛
高橋忠庸、舘田美保、中西初男、藤原太樹、牧 邦子、松浦久泰

【はじめに】理療教育課では平成22年度より東洋療法推進系の業務として、医師からの紹介・依頼・許可のあった患者を対象に教官によるマッサージ・鍼灸の臨床施術を開始した。今回は25年度以降の活動概況について報告する。

【施術対象者と施術体制】施術対象者は、①当センター病院入院および外来患者のうち担当医より依頼または許可のあった者、②当センター病院以外の医療機関から紹介があった者、③自立支援局利用者（理療教育を除く）で担当医より依頼または許可のあった者とした。施術は週1回・約45分を原則とし、完全予約制で1回800円の施術料で実施している。施術担当者は理療教育課の理療科教官8～13名が担当した。29年度から施術開始時の施術計画書と施術終了時の施術終了報告書を作成し、担当医師に提出することとした。

【実施状況】年間の患者実数は25年度：21名（入院4、外来9、利用者7、外部1）、26年度：16名（入院6、外来8、利用者1、外部1）、27年度：20名（入院4、外来9、利用者6、外部1）、28年度：27名（入院5、外来6、利用者15、外部19）、29年度：41名（入院16、外来10、利用者14、外部1）であった。年間の述べ施術数は25年度：282名（入院24、外来142、利用者77、外部39）、26年度：188名（入院37、外来80、利用者39、外部32）、27年度：252名（入院19、外来140、利用者62、外部32）、28年度：294名（入院18、外来103、利用者144、外部29）、29年度：524名（入院139、外来146、利用者210、外部29）であった。患者の基礎疾患で最も多いのは頸髄損傷（46.2%）であり、次いで胸髄損傷（9.3%）、脳出血（5.4%）、四肢切断（4.3%）で、脊髄損傷が約6割を占めた。

【課題】29年度は施術依頼件数が急増したため、施術担当者の調整がつかず、依頼を受けてから施術を開始するまでに2週間以上を要するようになってしまった。そのため10月中旬に新患の受入れを一時的に停止し、受入れ体制の見直しについて検討を行った。その結果、入院患者の対応を優先すること、利用者および外来患者の受入れは施術期間の制限を設けることとし、1月末から受入れを再開したが、まだ完全な課題解決には至っていない。

【おわりに】病院職員のご理解・ご協力により、この5年間で入院患者および外来患者ともに施術依頼が増加した。しかし、29年度は予想を上回る増加により、施術依頼を受けてもお待たせする状況が多数発生してしまった。受入れ体制の見直しにより改善されつつあるが、未だお待たせする状況は続いており、さらなる改善に向けて検討を進めていく予定である。また、施術効果の客観的評価を蓄積し、東洋療法が障害者リハビリテーションの1つとして位置づけられるよう目指していきたい。